

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となるために

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

## 2 中期的目標

ア 総合学科門真なみはや高等学校としての方向を定める

- (1) 17人に1人が外国にルーツを持つという本校の特性を生かす。他者と共感・協働できるようにする。
- (2) 95%が自転車通学をしている、地域に根差した学校である。フィールドや系列などで学んだことを生かし、地域に貢献できるようにする。
- (3) 総合学科生として、生徒が自らの「やりたいこと」「できること」「やるべきこと（個人として、地域社会で、未来の創り手として）」を理解し、進路を実現するための積極性と持続力を持つことができるようにする。
- (4) そのすべての基礎として、基礎的、基本的な知識を身につけ、応用し、自分自身で考える（自立・自律的に）ことができるようにする。
- (5) その上で、希望進路を実現する。

なにもないところに  
みちをつくれ  
はしりだそう  
やりたいことはここにある

そのために

## イ 確かな学力の育成

- (1) カリキュラム委員会を設置し、カリキュラム・マネジメントを確立する。
  - ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを確立する。（「何ができるようにするか」を考える）
  - イ 「何が身についたか」の評価方法を検討する。
- (2) 各教科を中心とした授業改善に取り組む。
  - ア どういう内容を、どう学ばせるか、各年度の振り返りなどをもとに本校としてのスタンダードを作り上げる。（生徒が「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を教科として共通認識とする。）
- (3) 興味関心を持たせ、知識や技能が身についたと感じられる「充実した授業」をめざす。
  - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートなどを活用した授業改善（特に生徒が「どのように学ぶか」に重点を置き）に組織的に取り組む。
  - イ 新たに整備したGU（グロウアップ）ルーム、ネットワークルームズを活用した授業の研究を進める。（「ICTを活用し、どのように学ぶか」の視点）
  - ウ 「授業力アップチーム」を核に、教員相互の授業見学と研修を行う。
  - エ 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の肯定割合（H28年度76%）を平成31年度には80%とする。

※学校教育自己診断（生徒向け）での「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価を、H31年度までに+8（80）%（H28年度72%）をめざす。

## ウ 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

- (1) 効力感、達成感の育成
  - ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現したり、認められたりする場を広げる。
  - イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率の維持（70%以上）をめざす。
  - ウ 小学校、中学校、大学との連携（出前授業・部活動指導など）を深める。また地域でのボランティアなどの貢献活動を継続する。
  - エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や態度を育む取り組みを充実させる。
- (2) キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成
  - ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育の充実を図る。
  - イ 生徒の考える力・まとめる力・発表する力等を育成するため、エリア、フィールドでの発表や、地域での出張授業、研修なども企画する。
- (3) 進路実現の支援
- (4) 資格取得の推進

※学校教育自己診断（生徒向け）で「ガイダンスは分かりやすい」の肯定的評価を、H31年度までに+5（78）%（H28年度73%）をめざす。

「進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価で、H31年度において85%以上を維持（H28年度90%）

※四年制大学進学希望者（第3学年当初）の一般入試受験率を、H31年度までに+4（45）%（H26～H28年度平均41%）をめざす。

## エ 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 生徒の規範意識を醸成する
  - ア 生徒が自らの行動を律することのできるように、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目の肯定率（H28年度80%）を保つ。

- (2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。
  - ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携しながら生徒情報交換会を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明確に示していく。
- (3) 保護者連携・地域連携を一層推進していく。

※学校教育自己診断（保護者・生徒向け）での「よく相談にのってくれる」項目の肯定的評価を、H31年度まで保護者向け75%以上を維持（H28年度77% H27年度72%）生徒向け+7%（70%）（H28年度63%）をめざす。

## オ グローバル人材の育成

- (1) 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導
  - ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
  - イ 日本人生徒との交流の促進

(2) 国際交流の推進 ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、等） イ 外国の学校との相互交流の実施 ※語学研修の回数を年2回程度、参加者を15人程度（H27年度9人、H28年度13人）対象で実施する。
---

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
（選択肢は、1＝よくあてはまる、2＝ややあてはまる、3＝あまりあてはまらない、4＝まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答、2と3の合計を中間的、3と4の合計を否定的回答とする） ○学校生活への満足度、全体的傾向 （関連質問）（1と2との合計（肯定的回答）（ ）内は前年度）（以下同じ） ・生徒「学校に行くことに意義を感じている」 78 (80) % 「門真なみはや高校に入学してよかったと感じる」 86 (86) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 56 (53) % ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 80 (87) % 「他の学校にない特色がある」 83 (87) % 「保護者の教育上の願いを聞いてくれる」 71 (71) % 「施設・設備で改善してほしいものがある」 32 (34) % ●生徒・保護者ともに学校生活への満足度は高水準 ●「意義を感じない」生徒の割合を減らすため、今後も教育内容の一層の充実が必要 ○保護者との連携 ・保護者「学校からの文書等の連絡はしっかり届いている」 74 (71) % 「子どもから学校の話をしきることが多い」 69 (74) % 「学校は、家庭への連絡や意志疎通を十分行っている」 67 (68) % 「学校のホームページを利用した事がある」 51 (49) % ●一斉配信メールを導入したが、連絡の率は少し上昇にとどまった。 ○学習環境、学習指導 ・生徒「静かに授業を受ける環境がある」 80 (78) % 「教え方を工夫している先生が多い」 78 (72) % 「授業の補習や講習は十分用意されている」 90 (88) % ・保護者「進学のための講習が十分行われている」 75 (79) % ●学習環境、教員の教え方の工夫について、生徒の評価は概ね高水準。「教え方の工夫」はこの5年間で15%上昇。 ●基礎・基本の定着、考える力の育成等に向け、一層の授業改善と生徒の自学習習慣の定着が課題 ○進路指導 ・生徒「進路や生き方を考える機会がある」 93 (90) % 「選択のためのガイダンス（マイプラン指導）は分かりやすい」 75 (73) % ●進路や生き方を考える機会を積極的に設けており、評価は高い。科目選択ガイダンス（マイプラン指導）の評価も高水準であるが、生徒状況に応じ、一層分かりやすい指導の工夫を継続 ●教員がキャリア教育の観点を持ったうえで、進路部・教務部・学年が連携し、3年間を見とおした計画的な進路指導及びガイダンスを一層充実させる必要がある。 ○生徒指導 ・生徒「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 71 (79) % 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 73 (76) % ・保護者「制服・遅刻・頭髪指導は適切」 86 (88) % ・教職員「服装・遅刻・頭髪指導は適切だと思う」 76 (86) % ●ていねいな生徒指導に対する生徒評価は概ね高水準、保護者も本校の生徒指導を概ね評価 ○人権尊重の教育ならびに「いじめ」について ・生徒「学校では全体的に人権に配慮が十分なされている」 89 (91) % 「相談にのってくれる先生がいる」 69 (62) % 「この学校では教職員が「いじめ」がないように気を配っている。」 79% (前年度同質問なし) 「この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない。」 92% (前年度同質問なし) ・保護者「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」 83 (85) % 「子どものことで相談にのってくれる先生がいる」 77 (72) % ●相談できる先生について、7%上昇した。今後もさらにいっそう進めたい。  ・生徒	第一回 平成29年6月7日 ●昨年度の学校教育自己診断結果から、学校に行くことに意義を感じないという回答が20%を占めている。授業を見た時などでの大阪府立門真なみはや高等学校の生徒の印象とは異なっている結果だが、数値が高いかなものか。 ●なみはやの様子がよくわかった。部活動への入部率が下がっていることが心配。 ●市民の教育への関心が高い。最近、通学路での車の暴走が報道された。なみはや生には、自転車の安全運転の見本となしてほしい。 第二回 平成29年11月8日 ●授業アンケート結果から、授業に真剣に取り組んでいるという生徒の自己認識の高さと、予習・復習等の家庭学習に対する取り組み意識の低さとの間にギャップが生じていることが指摘された。新学習指導要領で求められている主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力を育成するための工夫が求められる。 第三回 平成30年1月24日 ●通常の議案に加え、学校運営協議会への移行の件、髪を含む生徒心得について、働き方改革に関連して、教員の超過勤務の概況および今後の方策について協議しご意見をうかがった。その件については現行の方向をきちんと堅持してほしいとのことであった。 ●生徒の学習時間が短くなっていることに対し、スローガン掲げて生徒へのメッセージを提示し続けていくことも効果があるのではないか？ ●生徒の学習を支援するために学校での自習環境を提供しているが、遅くまで付き添う教員の負担が大きいのであれば、OBやOG、または近隣の大学にボランティアを募り手伝ってもらうなどの方法もあるのではないかと？ ●「高校時代しかできないこと」を大切にしてほしい。部活動、勉強にしっかり取り組んで充実した学校生活を送ってほしい。家庭の意識も、もっと部活動に参加するよう後押しするよう変わってもらえれば、と思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-------	----------	-------------	------	------

府立門真なみはや高等学校

<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) カリキュラム委員会の設置 (2) 各教科を中心とした授業改善 (3) 興味関心を持たせ、知識や技能が身についたと感じられる授業改善</p>	<p>ア カリキュラム委員会を設置する。 イ 本校が目標とする「つきたい力」を生徒が身につけられるように、各教科で（また教科横断的に）何を、いつ、どのように教えるかを意識したシラバスや授業計画を作成する。また、実施、振り返りを行う。 ア 授業アンケートの結果を教員及び教科等にフィードバックする。 イ ICTなどを活用し、教え方の工夫や、生徒自身の発表の機会などを積極的に設ける。 ウ 教員相互の授業見学と研修 ・教育実習期間に合わせた若手教員による授業見学及び研修の実施 ・初任者の研究授業を活用した研修会等の実施とともに、学校全体でも取組みを推進 エ ・自習できる環境の整備 ・授業以外の学習時間を、9月時点で前年比10%の増加を図る。</p>	<p>ア カリキュラム委員会の設置 実施回数10回/年 ア 次期指導要領を意識したシラバス・授業計画の作成率（全教科対象 100%） ア 授業アンケート全項目の肯定平均80%の維持（H28 80.3%）*非常勤除く イ ① 自己診断（生徒）で「教え方を工夫している先生が多い」（72%→75%） ② 各学年とも発表の機会を年1回以上 ウ ・若手教員（教職経験年数3年未満）は最低1回授業見学を行う。（H28 1回） ・すべての初任者の研修会を開催（すべての初任者について各1回以上開催）（H28 各1回） エ ・自習室の利用率80%程度を維持する。（H28 80%） ・学習時間平均 1年生 30分（H28 27分）2年生 35分（H28 30分）</p>	<p>ア カリキュラム委員会を設置し、現在まで25回実施。総合学科として、のカリキュラムを作成している。（◎） ア 全教科でシラバス・授業計画を作成した。（○） ア 授業アンケート肯定平均 80.5%（○） イ ①「教え方の工夫」78%（◎） ②全学年で発表の機会を1回以上持った。（○） ウ 若手教員の授業見学を行った。（○） 全初任者の研修会を行った（各1回）（○） エ 自習室の利用は定期試験前に集中しており、利用率が下がった（△） 図書室利用や、講習後の自習など、分散型になっている。 学習時間平均 1年生 26分、2年生 20分（△）</p>
<p>2 生徒の「やる気」スイッチをオンにする</p>	<p>(1) 効力感、達成感の育成 (2) キャリア教育の推進 (3) 進路実現の支援 (4) 資格取得の推進</p>	<p>ア 教科や行事等で自己表現したり、認められる場を広げる。 イ 部活動参加率 ウ 地域連携 ア 「産業社会と人間」から始まる3年間のキャリアプランの作成・2,3年生のキャリア教育の充実 イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。 ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。 ア 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。</p>	<p>ア ・発表会などの回数（各学年1回以上） ・「授業でまとめ・発表の機会がある」（生徒用学校教育自己診断）80%程度を維持（H28 78%） イ 70%以上を維持（H28 74%） ウ 市内小中学校との連携（1回以上）（H28 1回） 地域諸機関との連携（中小企業家同友会、門真市教育委員会など）1回以上（H28 1回） ア 「進路や生き方を考える機会がある（学校教育自己診断生徒用）」の肯定的評価85%以上を維持（H28年度90%） イ 生徒用学校教育自己診断で「ガイダンスはわかりやすい」とする割合70%以上。（H28 73%） ア ・四年制大学希望者（第3学年当初）中の一般入試受験率40%以上を維持。（H28 42%） ・就職内定率100%を維持 ア 受験者数の維持 ・漢字検定受験者数100名（H28 99名） ・英語検定資格保持者数（H28 3級100人、準2級28人、2級9人、準1級2人） ・エリア選択者の、エリアに関連する資格試験の受験率（パソコン検定など80%以上）</p>	<p>ア ・発表会各1回以上実施（○） ・「まとめ・発表の機会がある」82%（◎） イ 65.7%（△）特に1年生女子の参加状況が低い ウ 門真市立砂子小学校への理科出前授業（1回） 門真市図書館協議会（2回）（○） ア 「進路や生き方」肯定的評価93%（◎） イ 「ガイダンス」肯定的評価75%（◎） ア 四年制大学一般入試受験率41%（希望者171人中70人）（○） ・就職内定率100%（○） ア 受験者数 ・漢検176名（◎） ・英検準2級相当以上の生徒35人（○） ・ICTプロフィシエンシー検定試験受験100%（準2級合格100%）（◎）</p>

## 府立門真なみはや高等学校

3 安全で安心な魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成</p> <p>(2) 課題のある（困り感のある）生徒の支援</p> <p>(3) 保護者連携・地域連携の一層の推進</p>	<p>ア 生徒の安全な通学のために雨天時自転車通学の合羽の義務化</p> <p>イ 規範意識を持たせる</p> <p>ウ 携帯電話、SNS について生徒を啓発する。</p> <p>ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する生徒情報交換会を継続実施</p> <p>イ 生徒の相談しやすい相談室を充実する。心や発達のこと困っている生徒を支援する支援委員会、生活や家庭のことに困っている生徒の「学び」を保障する修学保障委員会を早期から必要に応じ開催する。</p> <p>ア 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。</p>	<p>ア 生徒の合羽の準備率および着用率（準備率90%以上、着用率も50%以上）</p> <p>イ 学校教育自己診断（生徒向け）規範意識に関する項目の肯定率80%以上（H28 80%）</p> <p>ウ 携帯電話、SNS についての啓発のための生徒の研修を行う（年1回以上）</p> <p>ア ・生徒情報交換会の実施（年5回）</p> <p>イ 学校教育自己診断（生徒向け）「よく相談に乗ってくれる」+2%（H28 63%）</p> <p>ア 保護者メール配信システムの構築及び実施。</p>	<p>ア 準備率100%、着用率50%以上（◎）</p> <p>イ 規範意識肯定率71%（△）</p> <p>ウ 携帯・SNS等の研修を行った。（○）</p> <p>ア 生徒情報交換会 5回（○）</p> <p>イ よく相談に乗ってくれる69%（◎）</p> <p>ア 保護者メール配信システム稼働中（○）</p>
4 グローバル人材の育成	<p>(1) 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導</p> <p>(2) 国際交流の推進</p>	<p>ア 合格時からの指導の充実</p> <p>ア 生徒の短期語学研修の充実</p> <p>イ 外国の学校との相互交流の実施</p>	<p>ア 高校生活が円滑にスタートできるよう合格決定後から早期の支援を実施する。（新規）</p> <p>ア 短期語学研修参加者を昨年並みに維持（H28 13人）</p> <p>イ 国際エリアだけでなく他のエリアも含めた交流受入数1校以上（H28 2校）</p>	<p>ア 合格決定後から、必要に応じ家庭訪問等早期の支援を行った（○）</p> <p>ア 短期語学研修参加者17人（グアム9人、中国瀋陽8人）（◎）</p> <p>イ 交流受け入れ1校（○）</p>